目次に戻る

小学校外国語活動・外国語科実施における現職教員の英語力・指導力強化のための課題調査研究

― 小学校教員志望地方大学生の課題意識との比較を通して ―

Survey Research of Issues for Teaching English at Elementary Schools

― The comparative study between elementary school teachers and local college students ―

大　牛　英　則
OGYU Hidenori

キーワード：初等英語科教育法・コアカリキュラム・英語運用能力・授業運営能力

はじめに

グローバル化が急速に進み，現在10歳の児童が大学を卒業し社会人として活躍をし始める2033年では人工知能（AI）の革新的な進化等に象徴される大きな変化が現実味を帯びてきている。そうした激変の社会を生き抜いていかなければならない者にとって，他者と協働しながら新しいものを創造するコミュニケーション能力は必須であり，そのコミュニケーションのツールとしての国際言語（英語）を習得することは不可欠となってきている。

このような現状をふまえて文部科学省は平成29年（2017年）3月に現行学習指導要領を改訂・告示し，令和2年（2020年）4月から小学校高学年で教科「外国語科」を新設，小学校中学年で外国語活動を実施することとした。これに伴い，目まぐるしい変化を遂げるこれからの社会を担う子どもたちの英語力を育むためには小学校教員の英語力・指導力の強化が必然となった。

しかし文部科学省による平成27年度公立小学校における英語教育実施状況調査によると，公立小学校教員の実用英語技能検定（以下「英検」）準1級以上の取得率は1.0％，小学校教員の海外留学経験の率は5.4％であることから小学校教員の英語力は著しく低いという結果となった。

さらに，令和元年度の同調査によると，CEFR※1 B2レベル（英検準1級程度）以上の取得率は1.3％（前回調査比＋0.3％），英語免許状※2所有者は調査対象教師数に対して6.3％であった。

これら2つの調査から言えることは，小学校教員の英語力は微増しているものの，依然としてその強化が求められているということである。追言すると，当該の英語力とは授業実施における教員が使用する英語運用能力であり，授業運営能力と相まって強化が求められていると言える。

※1　CEFR（Common European Framework of Reference for Languages ヨーロッパ言語共通参照枠）：シラバスやカリキュラム手引きの作成，学習指導教材の編集のために，透明性が高くてわかりやすく参照できるものとして，2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表したもの。学習者の習熟度のレベルをA1，A2，B1，B2，C1，C2の6段階で記述し，言語熟達度を評価する際の客観的基準として用いることができる。

※2　中学校・高等学校の臨時免許状及び特別免許状を含む。

第１章　本研究の目的

本研究では，前述の課題について，現職小学校教員が自身の英語指導力および授業運営能力をどの程度であると理解し，それらの能力の詳細についてどのような課題があると考えているかという傾向を調査するとともに，課題と考えられている項目について能力を向上させるのに必要な取り組みの考察を行うこととする。調査の際に使用する質問については大井（2020）と同じ項目※3を使用することとする。

※３　平成 27 年度，及び 28 年度「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」報告書にある調査項目および猫田（2010）で実施された調査項目を参考に作成された

さらに，教職希望学生の実態と現職小学校教員から得られた調査結果を比較することを通して，現状における現職教員の英語力・指導力強化のための課題を明らかにすることを本研究の目的とする。

第２章　先行研究

第１節　「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」「小学校英語教科化に関する広島市立学校教員の意識調査」

東京学芸大学では，文部科学省からの「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」を受託し，平成 27 年及び平成 28 年の２カ年にわたって調査研究した。

当該研究の目的は「教員の英語力・指導力強化に向けて，次期学習指導要領※4改訂の状況を踏まえつつ，①小学校教員及び中・高等学校の英語担当教員の英語力・指導力向上に向けた大学の教職課程におけるコア・カリキュラムを含めたモデル・プログラムの開発・検証，②小・中・高等学校の現職教員を対象とした教員研修プログラムの開発・検証を行い，それらの成果の活用・普及を図ること」とされた。

※４　小学校学習指導要領および中学校学習指導要領（平成 29 年告示），高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）

同研究報告書では小学校教員に求められる英語力について，次のように報告されている。

> 小学校教員に求められる英語力については様々な意見があるが，一般的な英語力のほかに授業で英語を指導するための，また英語で授業を行うための英語力を身に付ける必要があるという点では概ね意見が一致していた。具体的には次のような力が挙げられていた。
> ・英語の音声面の特徴を理解し，聞き手にモデルとして適切な程度の英語を使用できる
> ・聞き手を意識して，言い直したり繰り返したりして伝える工夫ができる
> ・自分や身の回りのことについて，聞き手が理解できる表現，視覚教材を使って３分程度の話ができる
> ・児童の使う英語に対してリキャストできる
> ・段階的に英語を使用して子どもたちを段階的に育てる見通しを持ち，それに応じて表現を選択できる
>
> また目標とする英語力の具体的な指標を示すことについては賛否両論であるが，具体的な指標の目安としては英検２級が最も多くの有識者・学会から提案されていた。指標を示すことへの反対意見の主な理由としては，そもそも小学校教員に求められる英語力が数値で測れるものではないこと，資格等を取ることが自己目的化してしまい，教員がそれに忙殺されてしまうこ

となどが挙げられていた。しかしながらより高い英語運用能力を身に付けることに対する反対意見はみられず，また教員として勤務し始めてから英語力を底上げすることは難しいため教員養成段階である程度の力を身に付けておくべきであるという意見もあることから，特に教員養成段階において目標とする英語力の指標を示すことは有意義であると考えられる。

（下線は筆者による）

上記報告文中に下線で示した内容については，ほぼ同様の意見が「小学校英語教科化に関する広島市立学校教員の意識調査－免許法認定講習開発事業を通して－」（大牛他，2017）でも報告されている。以下にその調査から，まとめの一部を示す。

本調査から，新たな免許状取得を促進する講習等の開発において小学校教員が課題として捉えているのは，1）受講にかかる時間の確保と短縮化，2）受講にあたっての業務の軽減，3）講習に係る経済的負担であることが明らかになった。また，4）免許授与権者である都道府県教育委員会との連携，5）受講するにあたっての教員の処遇（研修扱いとする等）が重要であることも明らかになった。

これら2つの先行調査で明らかになったことは，現職小学校教員が勤務しながら，一般的な英語力のほかに，授業で英語を指導するための英語力や英語で授業を行うための英語力を身に付けることは大変困難であるということである。回答者の多くは，英語力強化のための時間（処遇）や経済的負担の軽減が必須であると考えている。

ゆえに同報告書では，現職小学校教員が勤務をし始めた以降に自身の英語力を底上げする困難さを指摘するとともに，教員として採用される前段階の教員養成段階で英語力を身に付けておく必要性も指摘していると考えられる。

第2節　小学校教員志望の大学生課題意識調査

大井（2020）は前節で示された課題を元に，自身が所属する比治山大学の小学校教員を志望している大学3年生33名（教育実習直前）及び大学4年生38名（教員採用試験に合格し卒業後は公立小学校に赴任することが内定している）の計71名を対象としてアンケート調査（質問紙法）を実施した。

以下に，調査結果から見えてくる傾向等を示す。

問1：小学校外国語活動及び外国語科において，英語を使って授業をすることができると思うか。

この問いに「できる」と回答した学生は12名（17％），「できない」と回答した学生は59名（83％）であった。このことから，教育実習直前または採用が内定している学生でも5名中4名以上が英語を使って授業することができないと考えていることが明らかになった。

問2：英語を使って授業ができるために必要だと思うことは何か。（複数回答）

問1で「できない」と回答した学生59名への追質問である。

選択肢	人数	割合（％）
a：Classroom English を使って指示等を行うこと	47	79.7
b：各種カード，教材等を効果的に使って児童の理解を促すこと	35	59.3

c：児童の英語学習に対する興味・関心を高める活動を行うこと	37	62.7
d：英語を学ぶ教室の雰囲気作りを行うこと	31	52.5
e：自分の英語能力を向上させること	53	89.8
f：その他	2	3.4

このことから，英語を使って授業ができないと考えている学生のうち項目 a について約 80％，項目 e については約 90％の学生が授業中における自身の英語力が不足していると課題意識をもっていることが分かった。

問 3：小学校英語で教員に求められる資質・能力についての質問（全 34 項目）

問 3 では猫田（2010）が行ったアンケート調査の質問項目から 34 項目を抽出している。大井（2020）では，この質問は，それぞれの具体的事例について大学における教員養成カリキュラム中に位置づけて学習する必要があるか，授業外でも学習する必要があるか，またはその両方で学習する必要があるか，という質問である。つまり，それぞれの具体的事例について回答者自身が必要とするか否かを調査しているといえる。

調査結果から「授業・授業外の両方で学習する必要がある」と回答した具体的事例の上位 10 例は以下の通りである。

1	学習指導要領の目標の意味が分かる。
2	学習指導要領の内容や目標を踏まえた指導案が書ける。
3	学習指導要領に示されている内容を踏まえた授業構成ができる。
4	英語の意味を捉えながら聞くことができる。
5	英語で会話することができる。
6	英語で指示をすることができる。
7	児童の実態に応じた活動を，意味のある場面において実行できる。
8	3 つ／ 5 つの領域の目標を達成するための効果的な活動を考えることができる。
9	「Let’s Try!」の内容と活動を理解し，工夫して指導ができる。
10	5，6 年生用教科書に記載されている内容と活動を理解し，工夫して指導ができる。
10	児童に英語を聞くことを指導できる。

上の 11 例のうち，No.3，5，8 は指導者自身の英語運用能力に関する内容であり，他の例は外国語（活動）の授業を成立させるために必要な内容，つまり授業運営能力に関する内容ということができる。

このことから学生の多くは，英語で授業を行うことにおいて，自身の英語力向上は課題であると捉えている一方で，大学での学びは授業を成立させるための授業運営能力を求めているということができる。

問 4：外国語活動・外国語科を指導する上で対象者がもつ不安に関する質問（複数回答）

さらに大井（2020）では新規採用が内定している 4 年次学生 38 名に対して，将来外国語活動や外国語科を指導していくことに関して不安を感じていることについて調査した。その結果，「英語で授業を行うこと」に不安を感じている学生は 23 名（60％），「英語の正しい発音」に不安を感じている学生は 20 名（53％）であった。

このことから，小学校教員として着任する直前の学生でも，半数以上の者が依然として自身の英語力に自信がもてず，向上すべき課題として捉えていることが明らかになった。

第3章　調査

第1節　調査計画

本調査は，大井（2020）の問3で用いた質問項目と同じものを用いて，広島県内に勤務する現職小学校教員に対するアンケート調査を実施し，現職教員が課題とする具体的事例について，その傾向を探ることとする。

調査対象：現職小学校教員※5　26名

調査期間：2021年10月25日～同年11月19日

調査項目：本章第2節において示す。

※5　広島県内（広島市を除く）小学校に勤務し，3～6年生の外国語活動または外国語科の授業を担当している教員を無作為に抽出した。

第2節　調査内容

表1は大井（2020）の問3で使用した質問項目（全34項目）である。この質問項目を本調査でも用いることとし，回答方法はa）当てはまる，b）どちらでもない，c）当てはまらない，の三肢択一で回答を求めた。

Q	質問項目（具体的事例）
1	学習指導要領の目標の意味が分かる。
2	学習指導要領の内容や目標を踏まえた指導案が書ける。
3	学習指導要領に示されている内容を踏まえた授業構成ができる。
4	英語の意味を捉えながら聞くことができる。
5	英語で会話することができる。
6	英語で指示をすることができる。
7	児童の実態に応じた活動を，意味のある場面において実行できる。
8	3つ／5つの領域の目標を達成するための効果的な活動を考えることができる。
9	「Let's Try!」の内容と活動を理解し，工夫して指導ができる。
10	5，6年生用教科書に記載されている内容と活動を理解し，工夫して指導ができる。
11	児童に英語を聞くことを指導できる。
12	児童に英語を話すことを指導できる。
13	児童の実態に合ったゲームを実施したり，指導したりできる。
14	歌やチャンツを効果的に活用して指導できる。
15	絵本を使った指導ができる。
16	絵本を使う意図を理解している。
17	英語を学ぶ雰囲気作りを行うための活動を考えることができる。
18	導入で興味・関心がわくような活動を行うことができる。
19	英語で情報を聞いて，情報を伝達する活動を行うことができる。
20	英語で互いの気持ちを共有できるような活動を行うことができる。
21	児童がもっと英語を学びたいとおもいるような指導ができる。
22	児童が英語を学ぶ意義が実感できるような授業ができる。
23	児童が発言しやすい雰囲気をつくることができる。
24	児童の発言や活動を支援しながら進めることができる。
25	授業中，児童の反応や理解度を踏まえて指導案（指導計画）とは違う流れで授業ができる。
26	児童の反応や理解度が悪いとき，即座にそれに対応することができる。
27	ALTとのティーム・ティーチングの進め方が分かる。
28	クラスルーム・イングリッシュの種類を理解し，効果的に使うことができる。
29	児童の目指すべき学習者モデルとして英語を積極的に使う姿勢を見せることができる。

30　各種カードの効果的な使用方法が分かる。
31　教具や教育機器を授業の中で取り入れることができる。
32　教具や教育機器を有効に使うことができる。
33　他者と人間関係をつくることができるような活動を取り入れている。
34　周りの教職員と協力して授業づくりを行ったり，展開したりできる。

第４章　調査結果

表２は表１に示した質問項目（具体的事例）について調査した結果をまとめたものである。

調査結果を集計する際に，a）当てはまるの回答を３点，b）どちらでもないの回答を２点，c）当てはまらないの回答を１点と換算し，集計することとした。

また，それぞれの項目（具体的事例）を①英語指導力に関すること（5 項目），②授業運営能力に関すること（24 項目），③教員自身の英語力に関すること（5 項目），の３つに分類し，調査結果の分析の際に役立てることとした。

表２　アンケート調査結果

Q	質問項目（具体的事例）	分類	教員																									Total (点)	Average	平均達成率(%)
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z			
1	学習指導要領の目標の意味が分かる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2	1	3	2	2	3	3	69	2.7	88.5
2	学習指導要領の内容や目標を踏まえた指導案が書ける。	授業運営	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	2	1	2	3	2	3	2	68	2.6	87.2
3	学習指導要領に示されている内容を踏まえた授業構成ができる。	授業運営	3	2	3	3	2	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	3	2	3	3	70	2.7	89.7
4	英語の意味を捉えながら聞くことができる。	教・英語	1	3	1	1	1	2	2	3	1	2	3	1	2	2	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	59	2.3	75.6
5	英語で会話することができる。	教・英語	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	2	1	1	1	2	2	3	2	3	3	3	2	2	44	1.7	56.4
6	英語で指示をすることができる。	教・英語	1	3	1	1	1	2	3	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2	1	3	3	2	3	2	3	3	3	55	2.1	70.5
7	児童の実態に応じた活動を、意味のある場面において実行できる。	授業運営	2	3	2	2	2	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	2	3	2	3	2	2	2	2	3	3	2	64	2.5	82.1
8	3つ／5つの領域の目標を達成するための効果的な活動を考えることができる。	授業運営	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	3	2	3	2	3	2	2	1	2	3	3	2	62	2.4	79.5
9	「Let's Try!」の内容と活動を理解し、工夫して指導ができる。	授業運営	3	2	2	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	1	2	2	3	2	3	65	2.5	83.3
10	5,6年生用教科書に記載されている内容と活動を理解し、工夫して指導ができる。	授業運営	3	2	2	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	1	3	3	3	3	3	69	2.7	88.5
11	児童に英語を聞くことを指導できる。	英語指導	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	1	3	2	1	3	3	1	3	3	3	1	1	45	1.7	57.7
12	児童に英語を話すことを指導できる。	英語指導	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	3	2	3	3	3	3	2	43	1.7	55.1
13	児童の実態に合ったゲームを実施したり、指導したりできる。	授業運営	2	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	1	1	2	1	2	3	1	63	2.4	80.8
14	歌やチャンツを効果的に活用して指導できる。	英語指導	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	2	1	2	1	2	3	2	62	2.4	79.5
15	絵本を使った指導ができる。	英語指導	2	3	1	1	3	2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	3	1	2	2	3	3	3	3	46	1.8	59.0
16	絵本を使う意図を理解している。	授業運営	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	2	2	3	3	3	71	2.7	91.0
17	英語を学ぶ雰囲気作りを行うための活動を考えることができる。	授業運営	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	2	1	2	3	3	3	2	70	2.7	89.7
18	導入で興味・関心がわくような活動を行うことができる。	授業運営	3	3	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3	3	2	1	2	2	3	3	2	64	2.5	82.1
19	英語で情報を聞いて、情報を伝達する活動を行うことができる。	授業運営	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	1	3	3	1	2	3	3	3	2	68	2.6	87.2
20	英語で互いの気持ちを共有できるような活動を行うことができる。	授業運営	3	3	3	2	2	3	2	2	2	2	2	3	2	3	2	3	2	2	2	3	2	3	3	3	3	1	63	2.4	80.8
21	児童がもっと英語を学びたいと思うような指導ができる。	授業運営	1	3	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	2	3	2	3	3	1	1	56	2.2	71.8
22	児童が英語を学ぶ意義が実感できるような授業ができる。	授業運営	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	1	1	3	2	3	2	3	3	2	2	50	1.9	64.1
23	児童が発言しやすい雰囲気をつくることができる。	授業運営	3	3	3	1	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	3	2	1	2	2	3	3	3	68	2.6	87.2
24	児童の発言や活動を支援しながら進めることができる。	授業運営	3	3	2	1	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	3	2	3	3	3	1	3	2	3	3	3	66	2.5	84.6
25	授業中、児童の反応や理解度を踏まえて指導案(指導計画)とは違う流れで授業ができる。	授業運営	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	2	3	3	1	3	2	3	3	1	58	2.2	74.4
26	児童の反応や理解度が悪いとき、即座にそれに対応することができる。	授業運営	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	2	3	2	3	2	3	3	3	54	2.1	69.2
27	ALTとのティーム・ティーチングの進め方が分かる。	教・英語	1	3	3	1	1	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2	3	3	2	2	3	2	3	3	2	51	2.0	65.4
28	クラスルーム・イングリッシュの種類を理解し、効果的に使うことができる。	教・英語	1	3	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	3	1	3	2	3	3	1	40	1.5	51.3
29	児童の目指すべき学習者モデルとして英語を積極的に使う姿勢を見せることができる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	3	3	1	3	3	3	3	3	73	2.8	93.6
30	各種カードの効果的な使用方法が分かる。	英語指導	2	3	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	3	3	2	2	3	2	3	3	1	58	2.2	74.4
31	教具や教育機器を授業の中で取り入れることができる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	1	1	3	2	3	3	3	72	2.8	92.3
32	教具や教育機器を有効に使うことができる。	授業運営	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	1	3	2	3	3	3	57	2.2	73.1
33	他者と人間関係をつくることができるような活動を取り入れている。	授業運営	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	3	2	1	3	2	3	3	3	71	2.7	91.0
34	周りの教職員と協力して授業づくりを行ったり、展開したりできる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	1	3	2	3	3	2	69	2.7	88.5

さらに次に示す表 2-1 ～ 2-3 は，それぞれの分類を表２から抽出したものである。

表 2-1　英語指導力に関すること

Q	質問項目（具体的事例）	分類	教員 A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	Total（点）	Average	平均達成率（%）
11	児童に英語を聞くことを指導できる。	英語指導	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	1	3	2	1	3	3	1	3	3	3	1	1	45	1.7	57.7
12	児童に英語を話すことを指導できる。	英語指導	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	3	2	3	3	3	3	2	43	1.7	55.1
14	歌やチャンツを効果的に活用して指導できる。	英語指導	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	2	1	2	1	2	3	2	62	2.4	79.5
15	絵本を使った指導ができる。	英語指導	2	3	1	1	3	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	3	1	2	2	3	3	3	46	1.8	59.0
30	各種カードの効果的な使用方法が分かる。	英語指導	2	3	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	3	3	2	2	3	2	3	3	1	58	2.2	74.4
																															65.1

表 2-2　授業運営能力に関すること

Q	質問項目（具体的事例）	分類	教員 A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	Total（点）	Average	平均達成率（%）
1	学習指導要領の目標の意味が分かる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2	1	3	2	2	3	3	69	2.7	88.5
2	学習指導要領の内容や目標を踏まえた指導案が書ける。	授業運営	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	2	1	2	3	2	3	2	68	2.6	87.2
3	学習指導要領に示されている内容を踏まえた授業構成ができる。	授業運営	3	2	3	3	2	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	3	2	3	3	70	2.7	89.7
7	児童の実態に応じた活動を、意味のある場面において実行できる。	授業運営	2	3	2	2	2	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	2	3	2	3	2	2	2	2	2	3	2	64	2.5	82.1
8	3つ／5つの領域の目標を達成するための効果的な活動を考えることができる。	授業運営	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	3	3	2	3	2	3	2	3	2	2	1	2	3	3	2	3	62	2.4	79.5
9	「Let's Try!」の内容と活動を理解し、工夫して指導ができる。	授業運営	3	2	2	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	1	2	2	3	2	3	65	2.5	83.3
10	5, 6年生用教科書に記載されている内容と活動を理解し、工夫して指導ができる。	授業運営	3	2	2	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	2	1	3	3	3	3	3	69	2.7	88.5
13	児童の実態に合ったゲームを実施したり、指導したりできる。	授業運営	2	3	3	2	2	3	3	3	3	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	1	1	2	1	2	3	1	63	2.4	80.8
16	絵本を使う意図を理解している。	授業運営	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	2	2	3	3	3	71	2.7	91.0
17	英語を学ぶ雰囲気作りを行うための活動を考えることができる。	授業運営	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	2	1	2	3	3	3	2	70	2.7	89.7
18	導入で興味・関心がわくような活動を行うことができる。	授業運営	3	3	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3	3	2	1	2	2	3	3	2	64	2.5	82.1
19	英語で情報を聞いて、情報を伝達する活動を行うことができる。	授業運営	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	1	3	3	1	2	3	3	3	2	68	2.6	87.2
20	英語で互いの気持ちを共有できるような活動を行うことができる。	授業運営	3	3	3	2	2	3	2	2	2	2	2	3	2	3	2	3	2	2	2	3	2	3	3	3	3	1	63	2.4	80.8
21	児童がもっと英語を学びたいと思うような指導ができる。	授業運営	1	3	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	2	3	2	3	3	1	56	2.2	71.8
22	児童が英語を学ぶ意義が実感できるような授業ができる。	授業運営	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	1	1	3	2	3	2	3	3	2	50	1.9	64.1
23	児童が発言しやすい雰囲気をつくることができる。	授業運営	3	3	3	1	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	3	2	1	2	2	3	3	3	68	2.6	87.2
24	児童の発言や活動を支援しながら進めることができる。	授業運営	3	3	2	1	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	3	2	3	3	3	1	3	2	3	3	3	66	2.5	84.6
25	授業中、児童の反応や理解度を踏まえて指導案（指導計画）とは違う流れで授業ができる。	授業運営	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	2	3	3	1	3	2	3	3	1	58	2.2	74.4
26	児童の反応や理解度が悪いとき、即座にそれに対応することができる。	授業運営	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	2	3	2	3	2	3	3	3	54	2.1	69.2
29	児童の目指すべき学習者モデルとして英語を積極的に使う姿勢を見せることができる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	3	3	1	3	3	3	3	3	73	2.8	93.6
31	教具や教育機器を授業の中で取り入れることができる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	1	1	3	2	3	3	3	72	2.8	92.3
32	教具や教育機器を有効に使うことができる。	授業運営	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	1	3	2	3	3	3	57	2.2	73.1
33	他者と人間関係をつくることができるような活動を取り入れている。	授業運営	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	3	3	2	1	3	2	3	3	3	71	2.7	91.0
34	周りの教職員と協力して授業づくりを行ったり、展開したりできる。	授業運営	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	1	3	2	3	3	2	69	2.7	88.5
																															83.3

表 2-3　教員自身の英語力に関すること

Q	質問項目（具体的事例）	分類	教員 A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	Total（点）	Average	平均達成率（%）
4	英語の意味を捉えながら聞くことができる。	教・英語	1	3	1	1	1	2	2	3	1	2	3	1	2	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	2	59	2.3	75.6
5	英語で会話することができる。	教・英語	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	2	1	1	1	2	2	3	2	3	3	3	2	2	44	1.7	56.4
6	英語で指示をすることができる。	教・英語	1	3	1	1	1	2	3	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2	1	3	3	2	3	2	3	3	3	55	2.1	70.5
27	ALTとのティーム・ティーチングの進め方が分かる。	教・英語	1	3	3	1	1	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2	3	3	2	2	3	2	3	3	2	51	2.0	65.4
28	クラスルーム・イングリッシュの種類を理解し、効果的に使うことができる。	教・英語	1	3	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	3	1	3	2	3	3	1	40	1.5	51.3
																															63.8

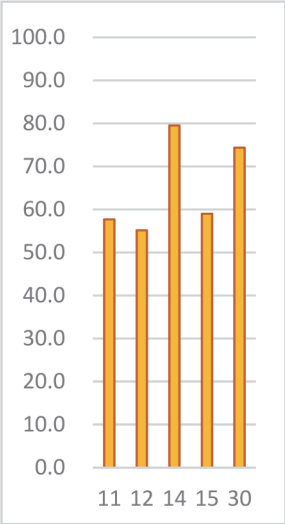

図 1　英語指導力

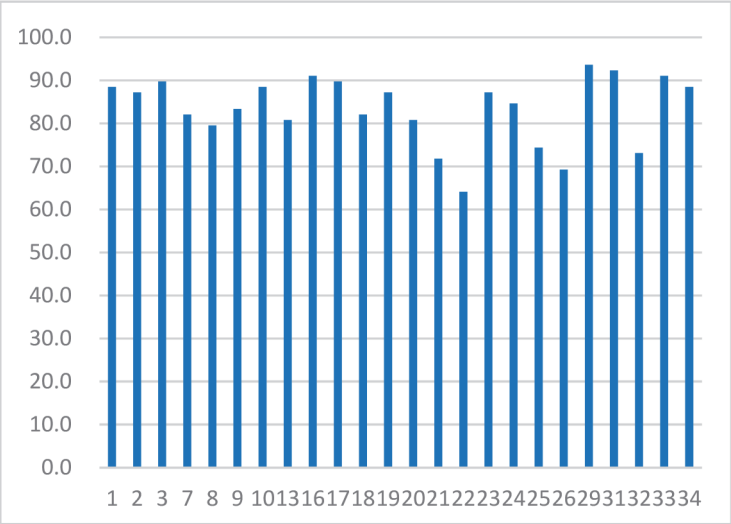

図 2　授業運営能力

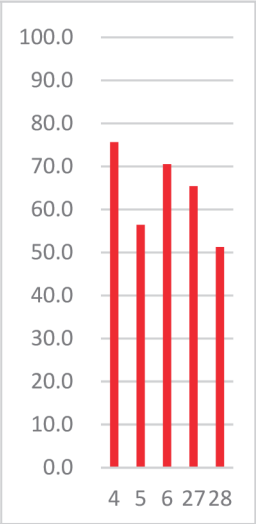

図 3　英語力

図 1 ～ 3 は①②③の分類ごとに，それぞれの項目（横軸）における平均達成率をグラフに表した

ものである。なお，①②③の分類ごとの全体的な達成率は次の通りであった。

①英語指導力に関すること　65.1％
②授業運営能力に関すること　83.3％
③教員自身の英語力に関すること　63.8％

第５章　考察

前述の第４章において①②③の分類ごとの達成率が示されたが，本章の分析・考察においては，達成率70％を境界とし，70％以上であれば「おおむね満足できる状況である」と判断，70％未満であれば「改善の必要がある」と判断することとする。

現職小学校教員の②の授業運営能力に関して，個別には差が認められるものの，おおむね満足できる状況である一方で，①英語指導力に関すること，および③教員自身の英語力に関しては改善の必要がある（満足できる状況ではない）状況であることが本調査から明らかになった。

第１節　英語指導力に関して

英語を指導するにあたって，自身の英語力が十分でないとの認識から，英語の指導に自信が持てないとする教員が多くいた。結果，英語指導力に関する項目全体の達成率は65.1％にとどまった。

５項目と少ない項目ではあるが，中でも項目11「児童に英語を聞くことを指導できる。」（57.7％），項目12「児童に英語を話すことを指導できる。」（55.1％），項目15「絵本を使った指導ができる。」（59.0％）の３つの項目について「改善の必要がある」レベルであった。

アンケートの際に付加的に行ったインタビューでは，「指導の方法というより，自分自身が英語を話したり聞いたりすることが得意ではないので，きちんとした指導ができない。」と回答する教員が多数いた。このことからも明らかなように，教員の英語指導力と自身の英語運用能力には密接な関係があることが分かり，この項目に関して改善するとすればまず教員自身の英語運用能力を高める取り組みが必要となる。加えて，児童の話す・聞く活動の実施にむけて，スモールステップで実施する方法の研修が必要となる。

一方で，項目14「歌やチャンツを効果的に活用して指導できる。」（79.5％）と項目30「各種カードの効果的な使用方法が分かる。」（74.4％）に関しては，「おおむね満足できる状態である」とすることができる。付加的インタビューでは「自分の英語運用能力に自信がもてずとも，良い音源や教具（カード）を使用することである程度自身の英語力不足をカバーできるのではないかと思う。」と考え，「当てはまる」と回答したとのことである。

第２節　授業運営能力に関して

授業運営能力に関する項目全体の達成率は83.3％と高い結果となっている。これらの項目はいずれも，日常的に行われる児童とのやり取りや他教科の指導を通して，学級の様子や雰囲気，児童個々の特性や課題を十分理解している担任教師や専科教員だからこその認識である。

また，調査対象とした教員が担当する日々の授業では，各教科の目標を踏まえて児童の理解や思考力・表現力等を育成するための工夫がなされていたり，児童が学習に主体的に取り組めるような働きかけ・工夫や授業展開が実施されていたりしていることが容易に推測されることから，この授業運営能力は教科・領域を横断的に貫いて必要とされる能力，いわば授業者としての汎用的能力ということができ，教員として勤務経験を重ねることで次第に身に付けることができる。

ここに，大井（2020）が指摘した，教員としての経験がない学生のニーズ（必要感）と，日々

児童に対して授業を実施している現職小学校教員の差をみることができる。

全体を概観すると，児童同士のやり取りを含めた関係づくりや学習意欲の向上，さらには学習環境を整えることに関する項目について高い達成率になっている。

しかしながら，24 項目の中で達成率が 70％未満であった 2 つの項目（項目 22「児童が英語を学ぶ意義が実感できるような授業ができる。」および項目 26「児童の反応や理解度が悪いとき，即座にそれに対応することができる。」）については改善を必要とされる。

(1) 項目 22「児童が英語を学ぶ意義が実感できるような授業ができる。」について

本項目の達成率は 64.1％であり，項目分類②の 24 項目中最も低い数値となっている。これは項目 1「学習指導要領の目標の意味が分かる。」と内容的に深く関係している。項目 1 の達成率は約 89％であり，調査対象のほとんどの教員が「学習指導要領の目標を理解している。」としている。このことから，指導する側の教員は学習指導要領の目標を理解しているものの，その目標を達成するための授業展開方法について，研修と実践が十分ではないことが予想される。この改善には実践した授業を振り返り，目標を達成するための改善点を明らかにした上で，改善策を練り再度実践を重ねるという過程が必要となる。いわゆる「授業研究会」を学年内・学年間を問わず定期的に重ねる必要がある。

(2) 項目 26「児童の反応や理解度が悪いとき，即座にそれに対応することができる。」について

本項目はいわゆる「教員の指導の『引き出し』」が不足している，あるいは「英語指導の経験不足からくる自信のなさ」が原因であると考えられる。現職教員は授業実施の際に，児童の理解や技能向上に向けて段階的に学習を計画する（スモールステップの原則）のが通例であり，そのような授業を実施することに慣れている。そして，計画段階において予想する児童の反応や理解と実際のそれらが違っている時には，その指導をさらに細かい段階にわけて順に指導することができるものである。そのことを可能とするのは，それまで教員としての経験からくる指導のバラエティであり，いわゆる「指導の『引き出し』」である。これは非常に高度な指導のテクニックということもできるであろう。

しかしながら，英語の授業運営においては，そもそも指導経験が少ない教員が圧倒的であり，その「引き出し」も少ないことが予想される。本項目の達成率を上げるには，さらに授業実施経験を重ね，その中から有効な対応策を身に付ける必要があると考えられる。

第 3 節　教員自身の英語力に関して

教員自身の英語力に関する項目の全体的な達成率は 63.8％である。これは分類①の英語指導力に関する項目全体の達成率とほぼ同じである。

5 項目中の 2 つの項目（項目 4「英語の意味を捉えながら聞くことができる。」（75.6％），項目 6「英語で指示をすることができる。」（70.5％））では「おおむね満足できる状況」をわずかながら達成しているものの，他の 3 項目については，「改善の必要がある」と判断される。

この結果から見えてくることは，教員の英語力（特に音声面）について，ゆっくり丁寧に話してくれさえすれば，英語を聞いて意味を捉えながら理解することはできるが，聞いたことに対する反応として自身の考えや気持ちを即興的に表現する能力について不足している可能性があるということである。

また，クラスルーム・イングリッシュに関して『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

実習編』（文部科学省，2017b）では次のように記述されている。

> クラスルーム・イングリッシュは，児童のリスニング能力を飛躍的に向上させるというものではなく，「英語の授業の雰囲気づくり」としての意味合いが強い。また，教師が積極的に英語を使用することにより，児童が一生懸命に教師の英語を聞こうとする態度を引き出すことにもなる。指導者（日本人の教師）も英語を使うよいモデルとして，授業中の指示や質問にできるだけ英語を使うように努力したいものである。
>
> クラスルーム・イングリッシュを用いるときには，ふだん日本語で児童に話すときと同じように，児童の理解の程度を確かめながら，ゆっくり，はっきりと言うように心がける。いくつかの指示を出さなければならないときは，一度にたくさんの指示を出したり，長文で指示をしたりすることは避け，簡潔な文で一文一文児童の理解を確認しながら指示するなどの配慮が必要である。新出の表現を用いるときは，何度か聞かせるとともに，動作を加えたり，絵を描いたりして児童の理解を助けるようにする。場合によっては日本語を効果的に活用して，教師の意図するところがすべての児童に正しく伝わるように工夫したい。また，児童の目をしっかり見て言うことを忘れてはいけない。

項目 6（70.5％）はクラスルーム・イングリッシュを用いて指示をすることができるか否かを問う項目である。このクラスルーム･イングリッシュは，どのような場面で，どのような活動を仕組み，どのような指示を出すかということについて計画の段階である程度準備することができる。つまり，活動の指示や説明を目的とする，いわゆる「クラスルーム・イングリッシュ」と児童の反応や個々の活動に応じた指示等の即興的な英語発話とは質的に違いがあることから，即興的な英語運用能力からは除外する必要がある。

さらに即興的な英語運用能力を高める取り組みに関して言及すると，短時間で運用能力を飛躍的向上させる効果を期待するのは非常に難しく，とはいえ日々の業務に忙殺される現職小学校教員にとっては研修時間をまとめて確保するのは現状において困難である。したがって，教員として採用･赴任するまでの期間（教職課程を履修する学生の時期）に，海外留学等を含めて，十分な時間をかけて修得することが望まれる。

大牛（2021）では，現職小学校教員の英語運用能力向上に向けて次の 3 点を提案している。

> 1）基本となるフレーズを覚え，場面や状況に合わせて単語や表現を入れ替え，結果的に使用できる表現を増やす。
> 2）反応速度を上げる（自動化を図る）ために，獲得した単語や表現はくり返し授業で使用する。
> 3）授業中に英語で言いたくても言えなかった表現を記録しておき，後にその英語表現を確認し，翌回から使うように心がける。

このように，多忙を極める小学校教員の英語運用能力を高める取り組みについては，一朝一夕にその効果を期待することはできないので，日々の授業実践の中で少しずつ表現の幅を広げる努力が必要であり，そのことが最も効果的な方法であるかもしれない。

おわりに

本調査研究では，現職教員の英語力・指導力強化のための課題とその傾向を探ることが主たる目的であった。これまで文部科学省や多くの研究者が，現職小学校教員の課題を①英語授業力強化，②英語力強化の 2 点であるとしてきた。本調査研究において，調査対象となる教員数が十分ではなく，あくまでも対象者群の傾向として限定されているものの，それぞれの能力強化における具体的な課題が明らかになったと考える。そして，本調査において用いた手法を活用し調査対象者数を十分確保することで，外国語活動・外国語科実施における現職小学校教員の英語力・指導力強化に向けての課題が一般化されるのではないかと考える。

今後は，調査する項目を精査しつつ十分な調査対象者を確保し，一般化された課題を解決するための方策を吟味したいと考える。

末筆ながら，本調査においてご協力いただいた小学校教員の皆様には，心からの謝意を表したいと存じます。

参考文献・引用文献

猫田和明（2010）『英語指導者に求められる資質・能力の具体化を目指して ― 小学校教員と中学校英語科教員へのアンケート調査から ―』中国地区英語教育学会研究紀要　No.40

文部科学省（2016）『平成 27 年度公立小学校における英語教育実施状況調査の結果について』https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1369258.htm（2021 年 11 月 23 日閲覧）

文部科学省（2020）『令和元年度公立小学校における英語教育実施状況調査について』https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043.htm（2021 年 11 月 23 日閲覧）

大井のぞみ（2020）『小学校英語で必要とされる英語指導力の育成に対する提案～教員養成カリキュラムに着目して～』比治山大学現代文化学部卒業論文（学士学位論文）

東京学芸大学（2016）『文部科学省委託事業「英語教員の英語力･指導力強化のための調査研究事業」平成 27 年度報告書』

東京学芸大学（2017）『文部科学省委託事業「英語教員の英語力･指導力強化のための調査研究事業」平成 28 年度報告書』

大牛他（2017）「小学校英語教科化に関する広島市立学校教員の意識調査－免許法認定講習開発事業を通して－」比治山大学紀要第 24 号

大牛（2021）「現職小学校教員の英語運用能力向上をはかる効果的なトレーニング方法― 外国語科授業運営に焦点を当てて ―」比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究　第 7 巻

文部科学省（2017a）『小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編』開隆堂出版

文部科学省（2017b）『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』旺文社

吉田研作編著（2017a）『平成 29 年度版小学校新学習指導要領の展開　外国語活動編』明治図書

吉田研作編著（2017b）『平成 29 年度版小学校新学習指導要領の展開　外国語編』明治図書

大城賢編著（2017）『平成 29 年度版小学校新学習指導要領ポイント総整理　外国語』東洋館出版